公開書簡

2011 年 4 月 26 日
宛先：世界のリーダーの皆様
差出人：ノーベル平和賞受賞者有志

世界のリーダーに対するノーベル平和賞受賞者による呼びかけ
原子力より再生可能エネルギーを選んでください

ウクライナのチェルノブイリ核災害から 25 回目の記念日に、そして日本に壊滅的打撃を与えた巨大地震と津波から 2 ヶ月あまり後､記名した私たちノーベル平和賞受賞者は再生可能エネルギー源を約束することで、より安全な、そしてもっと平和な未来に投資するよう、皆様にお願いします。いまこそ原子力発電はクリーンでも安全でも手頃でも無いエネルギー源だということを認識する時です。

福島原子力発電所の損傷の結果、空気中に、水中に、そして食品に含まれる放射能のため、日本の人々のいのちが危険にさらされているということに、私たちは深く動揺しています。もし世界が現在使われている原子力利用から段階的に脱却するならば、次世代を担うすべての人々、そしてすでに過剰な被害を受けてしまった日本人も、より確実に平和で安全な人生を送れるだろうと私たちは固く信じています。

「チェルノブイリ事故から 25 年後、事態は改善されていると主張する人々が何人かいます。私はそうは思いません」と言うのは、チェルノブイリ除去作業者（清掃作業に従事した）の一人、ミコラ・イザイエフさんです。「私たちの子どもたちは汚染された食べ物を食べて病気になり、我々の経済は破壊されています。」イザイエフさんは日本で働いている除去作業者のことを理解することができると話しています。イザイエフさんと同じように、日本の除去作業員はおそらく原子力の安全についてあまり疑問を抱かなかったのでしょう。

北東海岸に沿って津波の全威力を被った町の一つ、気仙沼市の商店主の声に耳を傾けてください。「放射能は極めて恐しいです。それは津波以上のものです。津波は目で見えますが、放射能は目に見えません。」

悲しい現実は、日本で起きた核放射能の危機が、これからも他の国でまた起こりえると言うことです。それはすでに旧ソ連のウクライナのチェルノブイリ原発（1986)、米国スリーマイル島原発（1979)、そして英国ウィンズケール／セラフィールド（1957）で起きたことでもあります。核事故は地震や津波のような自然災害に起因して発生しますし、人的ミスや不注意でも起こります。全世界の人々は同様に原子力発電所に対するテロ攻撃の可能性をも恐れています。

けれども放射能の懸念は核事故だけではありません。核燃料サイクルのそれぞれの工程で放射能は放出されます。まず、ウラン採掘のボーリングに始まり、その後も数千年にわたり有害であり続けるプルトニウムを含む核廃棄物から何世代もの間にわたって放射能の放出が続きます。何年も研究を続けてきたにもかかわらず、米国のように核エネルギー計画を持つ国は「使用済」核燃料を安全に、しかも安定した状態で保管する方法を見つけるという困難な課題を解決できていません。一方、毎日止めども無く使用済燃料が生み出されています。

原子力発電の提唱者は原子力発電政策が核兵器用の原料を供給するという事実に直面しなくてはなりません。事実これは、イランの核開発計画の裏に潜むものとして注目され心配されていることです。核エネルギーを追い求めることの膨大な脅威を原子力産業がどんなに無視したとしても、ただ軽視したり無視したから消えてなくなるというような問題ではないのです。

さらに、核エネルギーの厳しい経済的な真実に直面しなくてはなりません。原子力は自由市場で他のエネルギーとは競争をしません。なぜならそんなことは出来ないからです。原子力は一般の納税者によって法外な費用がまかなわれるエネルギー選択です。原子力産業は施設建設、賠償責任限度額、汚染除去、健康管理に対する賠償保険費用を負担する広範囲にわたる政府交付金 ― 納税者のお金 ― を受け取ってきました。
私たちはもっと責任を持ってこの公的資金を新しいエネルギー源へ投資することができます。

世界中に現在 400 基を超える原子力発電所があり、自然災害や政変に見舞われるリスクの高いところが多くあります。これらの発電所は世界の全エネルギー供給の 7 %足らずしか供給していません。世界のリーダーである皆さんは力を合わせて、この少量のエネルギー源を他の容易に利用可能な、非常に安全な、そして持続可能な供給源で置き換え、低炭素と非核の未来へと私たちの社会を移行させていくことができます。

私たちはごく最近日本で発生したような自然災害による大惨事を止めることはできませんが、より良いエネルギー源を選択するために一緒に力をあわせることができます。私たちは化石燃料と原子力から段階的に脱却し、クリーンエネルギー革命に投資することができます。それはすでに進行中です。過去 5 年間に、風力や太陽光発電からの新エネルギーが世界的規模で、原子力発電よりもずっと多くなりました。世界的に太陽光や風力、その他の再生可能エネルギー源からの収益が 2010 年には 35 %も急上昇しました。これら再生可能エネルギー源に投資することは雇用も創設するでしょう。

再生可能エネルギー源は平和な未来への強力な鍵の 1 つです。だからこそ、世界中の人々の多く、特に若者たちが、政府の方向転換を待たず、すでに自分たちでその方向へと歩み始めているのです。

各国が低炭素で非核の未来を目指すことによって、核拡散を拒絶し再生可能エネルギー資源を支持する世界的な市民運動と共同関係を結び、増大しながら影響力を広げている勢力を広げていくことができます。皆さんもぜひこのような人々に合流し、次世代だけではなく私たちの惑星そのものを守り支える強力な遺産を生み出していくように呼びかけます。

敬具

ベティー・ウィリアムス　アイルランド (1976)
マイレード・マグワイア　アイルランド (1976)
リゴベルタ・メンチュ　グアテマラ (1992)
ジョディー・ウィリアムス　米国 (1997)
シリン・エバディ　イラン (2003)
ワンガリ・マータイ　ケニア (2004)
デズモンド・ツツ大主教　南アフリカ (1984)
アドルフ・ペレス・エスキベル　アルゼンチン (1980)
ホセ・ラモス・ホルタ大統領　東ティモール (1996)

原文：http://www.nobelwomensinitiative.org/home/article/no-to-nuclear-power-nobel-laureates